

水への親孝行

水ってなんだろう。水はいつから存在するのだろう。もし、世界から水が消えたらどうなるのだろう。様々な疑問があげられる不思議な水。

これらの疑問に私はすぐ答えることができない。いつも身近にあるはずなのに、意外とその実態は知られていない。私は気になって仕方がなくなり、図書館に行つて、水とは何なのかを調べることにした。図書館に着いてから、早速コンピューターで水についての本を検索した。すると、二十冊くらいみつかった。少し気になった水に関する本を十冊ほど手に取ってみた。だが、半分は水の科学変化について書かれた難しい本だった。その中で、水の歴史について書かれた本をみつけた。一時間ほど居座つたにもかかわらず、借りた本はその一冊だけだった。

生駒市立上中学校 二年

大和 歩乃佳

家に帰つて、その本を読んでみた。
『人類の進化の歴史も、常に水とともにあつた。』

『水資源の豊かな地域には人が集まり、文明が生まれた。』

『「ライバル」という言葉の語源は、ラテン語で「小川」を意味する *flumen* の派生語である。』
『*flumen* で、「同じ川（水源・水利権）をめぐる争う人々」という意味だといわれている。』（PHP研究所出版 水で世界を制する日本 柴田明夫）
これらから、古代の人々は、水を通して文明や国を発展させたということだろう。もし、水がなかったら、今、目の前にある景色がなかったのかもしれない。そう思うと、水への興味はさらに深まるばかりである。

そんな水にも、とてもおそろしい一面があ

る。近年、地球温暖化による海水の上昇で、水没してしまふ村もある。それに、二千十一年三月十一日に日本の東北地方を襲った大きな津波で、亡くなった方や行方不明者がたくさんいた。今の私たちには、津波を止める力、地震を防ぐ力：つまり自然に逆らう力をもっていない。

だからといって、放っておくわけにはいかない。これからも日本は復興活動を続けている。元々の東北の活力を取り戻そうとしている。いくら自然のさだめに流されたって、何度でも立ち上がり、自然と共に生きていくことが大切だと思う。

時にはおそろしい一面を見せる水。でも、私たちの生活を支えてくれている。もし水がなかったら、自分はいなくなってしまう。ましてや、人類が生まれ、進化することもない。かかったかもしれない。地球だっただけなら、かかったかもしれない。やっとなんか、水は、水とは何か少し分かったかもしれない。進化させ、私たちの成長を支え、時には苦しみを与え、立ち直らせ成長させてくれる地球の母のような存在なのだ。

私たち人間は、水に親孝行をしなければならぬ。一つは、水という大切な資源をそのままにせず、よごさず大切にしていこう。もう一つは、水についてじっくり考え、興味をもち、共に生きていくこと。この二つが、水に対しての最高の親孝行といえるのではないだろうか。